発行:武蔵野東学園連合後援会だより編集委員会
新 6 号
平成13年3月8日発行

武蔵野東学園 連合後援会だより

1年間、おつかれさまでした
- 連合後援会代表幹事から後援会のみなさまへ
- 卒業する各園校五役から皆様へ

ボストン交流
- ウェルカムパーティ報告
- ボストン東スクールツアーリポート

ニュースコーナー

ラグビー部後援会発足！

昨年9月に発足した武蔵野東技能高等専修学校ラグビー部が、部員が8名、マネージャー3名の部に成長しました。ここに至るまで、ラグビー専門誌での特集掲載。高体連主催の大会出場認可。現在もマスコミの取材が入る予定になっています。
選手も、「ラグビーも大切な個性」の言葉を胸に、情熱をもって技能向上に励んでいます。

武蔵野ラグビースクールやクラブチームダックス（日大鶴ヶ丘高校ラグビー部OBチーム）からの強力なバックアップの元にここまで来たラグビー部ですが、このたび後援会も発足し、より確実な形作りへ又一歩前進いたしました。

OB会などによるフォロー体制が出来ている他校と違い、創部したてのラグビー部なので、この期間の後援をしていただく為に発足したという次第です。

ラグビーの衰退、競技人口減少のおり、1人でも多くの方に後援していただけることで、部員をもとより関係者にとって大きな心の支えとなります。ラグビー好きな保護者の皆様の参加をお待ちしております。

連絡先
高等専修学校の
天宮先生まで！

武蔵野の東、世界のHigashi、世界の後援会？

3月21日、東中学校の生徒31名がBOSTONへ旅立つ。
子供たちの受け入れ先となる町、ネイティックは以前ボストン東スクールの寮があった場所であるが、今回のBOSTON学習も地元では町を上げての大イベントとなっているという。昨夏、地元タブロイド紙で紹介された記事を読んでいると、ネイティックの町の人々がいかに「国際的に知られた東学園」の生徒達を迎え入れることを楽しみにしているかが伝わります。昨秋には、初の試みとして、むらさき会のボストン東見学ツアーが企画され、今年もまた発表会にあわせてBOSTONからお客様がお見えになりました。学園が掛けた橋を渡って、ネイティックの子供達が武蔵野に来る日もそう遠くはありません。新世紀、世界の後援会を目標に頑張りましょう！

この1年間、連合後援会の代表幹事として、いろいろな場面でリーダーシップを発揮してきて下さいました、幼稚園後援会の岩崎会長から、連合後援会を代表して、みなさまへのご挨拶です。岩崎会長、1年間、ありがとうございました。

皆さまの1年間のご協力に感謝

幼稚園後援会々長　岩崎　充利

早いもので今年度の武蔵野東学園後援会活動も残り僅かとなりました。

保護者である後援会々員の皆さまにこの一年間力強いご協力をいただき、今年も私たちの目的である学園を支える～そして支えたことにより子供たちに良い教育の場が与えられた～ことができましたことを大変嬉しく思い、改めて心から感謝申し上げます。

まもなく子供たちにとっても一生忘れることのできない「卒園・卒業」という巣立ちの季節がやってまいります。子供たちを取り巻く社会では、教育を含め様々な問題が山積みされています。その中で心の教育をしっかり身に付け巣立っていく東っ子たちが、将来リーダーとして様々な問題に立ち向かう時が必ず来ると信じ、これからも大きな声援を送りつづけていきたいと思います。ここ数年、親子共に東学園の卒業生という方も増えてまいりました。この歴史を大事にこれからも東学園をバックアップするという立場を守りつつ、後援会活動の充実を図って参りたいと思いますので、皆様のご協力の程、よろしくお願いします。

この1年をふりかえって　－卒業していく各園校五役からみなさまへ－

この1年間、後援会活動の最前線で一緒に汗を流し、お母様方のリーダーとして私たちを引っ張りつづけてくれた各園校の副会長・監事に、卒業を前に寄稿をお願い致しました。

私の大切な宝物！

幼稚園副会長　古田由美

もうすぐ娘の卒園の日を迎えようとしています。今年度は副会長という大役を務めさせて頂きましたが、微力ながら後援会のお手伝いができました事を、嬉しく思っています。

また、先生方をはじめ、後援会の皆様と元気一杯の子供達に支えられて今日まで来ることができたのだと、感謝の気持ちで一杯です。

卒園準備の会の皆様とも、いつも笑いの絶えない楽しい活動ができました。思い出に残る卒園を祝う会になることでしょう。

この後援会活動を通して多くの方々と、めぐり逢えました事は私にとって大切な宝物になりました。

皆様、本当にありがとうございました。

幼稚園楽しかったね！

幼稚園副会長　河原文恵

人前に出ることが苦手で、大雑把な私には、向いていない役どころと思いながらも、多くのお母様方にいろんな面で助けていただき、自分にできる範囲で、精一杯活動してきました。幼稚園を出入りする機会がほんの少しだけ多かったおかげで、東幼稚園のことをたくさん知ることができたように思います。ある外部の業者の方が驚いてこう言われました。「こちらの先生方は本当にパワフルですね。こんなに熱心な幼稚園は初めてです。」我が子を預けている母としては、とても心強い言葉でした。幼稚園の様子を身近に感じながら、活動できるのは、なにより安心につながりました。

卒園の日には、娘に「ママも幼稚園楽しかったよ。」と伝えようと思います。そして、お会いできたたくさんの友人達には、心より「ありがとう」と伝えたいです。

友達、100人できたかな？

小学校副会長　堀内美佐子

北原キヨ先生の魅力に惹かれ長男が初めて東幼稚園にお世話になってから18年、後援会活動に五役として携わってから4年、小学校卒業のときを迎えてしまいました。
娘が東小入学の時、担任の河村先生とクラスのお友達と一緒に♪　友達100人できるかな♪と大きな声で歌っていたのがついこの間のことのように思い出されます。私もお役のお陰で、会長、副会長、五役、むらさき会代表の方々、毎年の役員さん、学年のお友達と100人以上のお母様方と知り合い、支えていただいて何とかここまで来ました。

何事にも一生懸命に情熱と愛情を注いで下さった東小の先生方とも、もう僅かでお別れするのはとても淋しいです。子育てと共に私自身も育んで下さった東小学校に感謝の気持ちでいっぱいです。

これからも後援会活動にご理解とご協力をいただき、益々東学園が発展されますよう願っております。

3年母組卒業します！

中学校五役監事　東　早苗

卒対役員という超多忙な楽しかった日々の余韻を味わっていたある日のこと、「中学で役員を…」というお話をいただいた。中学では役員が2人ずつだし、自分は補助的な立場だと言い聞かせてはみたものの、五役という響きは私にとってとても重く、不安と「まあ、どうにかなるだろう」という半ば、俎板の鯉の心境でお引き受けしました。でも今振り返ってみると、役目が云々というよりも、何より、友人が沢山できた事。そして毎年の学園祭で、子供の頃から大好きだった「お店屋さんごっこ」ができた事がうれしい思い出となりました。いよいよ後継者にこのお店を譲る（？）こととなり、果たして少しでもお役に立てたのかという疑問と、こんなに楽しみながら、色々なことを学ばせていただいた感謝の気持ちを抱きながら、引退・卒業させていただきます。ありがとうございました。

みんな、ありがとう！

中学校副会長　安島美代子

春の訪れとともに、本年度も終わろうとしています。後援会の皆様には色々な面でご協力して頂きましたこと、感謝申し上げます。

また、一年間活動して下さいました役員の皆様、お疲れ様でした。そしてありがとうございました。この輪（和）が、来年度にも続きますよう、願っております。

早いもので、東学園にお世話になってから、20年の月日がたとうとしています。この間、多くの方々に支えられながら、4人の子供たちと一緒に沢山のことを学ばせて頂きました。至らぬ点も多々あったと思いますが、暖かく見守りご指導下さいました先生方には感謝の気持ちで一杯でございます。どっぷり浸かっていた「東」ですが、淋しさを感じながらも、楽しかった数々の思い出を胸に、私も東学園を卒業いたします。

東学園の先生方、後援会の皆様、本当にお世話になりました。最後に私を支えてくれた友人、家族に「ありがとう」の言葉を!!

6年間を振り返って！

高等専修学校副会長
川満敬子

高等専修学校に初めてお世話になってから早6年。息子が入学した頃は、戸惑うばかりでしたが、共に励ましあい、いたわりあい助け合っていけるという気持ちが私の支えになっていました。

入れ違いに娘が入学しましたが、やはり出会いの素晴らしさを実感し、後援会活動ではいつも力強いご支援に支えられ、楽しく活動させていただきました。

そして今、卒業する春を迎え学園の先生方の熱意あるご指導に心より感謝申し上げます。
本当にありがとうございました。

2001年ボストン交流　BOSTON→TOKYO

ウェルカムパーティ報告

今年も発表会に合わせて、ボストンからお客様がいらっしゃいました。ガーランド理事長ご夫妻、ファンテイジア校長、親の会（後援会に相当）からロックさん、マレーさん、パーカーさん、カントロウィッツさん、ボストン東スクール職員のケリーさんとペーダーセンさんの9名が今回のお客様です。

2月16日、ボストンからのお客様を迎えて、本館の談話室でウェルカムパーティが行われました。

ボストン側からは、ガーランド理事長ご夫妻、ファンテイジア校長、ボストン親の会々長のロックさん、イギリス支部長のマレーさん、保護者のパーカーさん、カントロウィッツさん、ボストン東スクール財務担当のケリーさん、同言語課のペーダーセン先生と9名がお見えになりました。

学園からは野田学園長をはじめとした各園校の校長、副校長などの先生方。後援会からは各園校の会長、副会長が参加いたしました。

今年の英語スピーチ大賞は…

昨年同様に幼稚園、岩崎会長の司会でパーティは始まった。
いつも英語でスピーチをする岩崎会長だが今年は通訳の先生を通しての司会である。

小学校、高橋会長の歓迎の挨拶が始まると同時にその謎は解ける。

今年の高橋会長はなんと英語のフルスピーチ。どうやら一昨年のボストン以来、この日のために温めてきたスピーチのようで、ボストンの発表会で見てきた子供たちの様子などを英語でストレートに話し掛けるとボストンからの一行が深く頷き耳を傾けた。

英語スピーチの後の日本語スピーチが終わると、大きな拍手と歓声があがった。今年の英語スピーチ大賞が決まった瞬間である。
高橋会長4日間の労作だそうです。

レッドソックス特別宣伝員 vs 踊るそっくりさん

このあと、パーティ出席者全員の自己紹介がはじまったが、皆さん例年よりユニークなスピーチが多く会場もその度に和やかさが増していった。実は日本からの出席者にはパーティ前に1枚の小さなシールが手渡されていたのだが、これはボストンレッドソックスのシール。何故か、一同レッドソックスのシールを胸にしてパーティ会場へ入ると、なんと会場には応援グッズの旗まで飾り付けられていた。ファンテイジア校長は「今日はボストン東スクールの校長としてではなくレッドソックスの宣伝員として来ました」と挨拶するほどの熱烈なレッドソックスファン。皆さんもファンテイジア校長にお会いする機会がございましたら、「GoGoレッドソックス！」と声をかけましょう。

マレーさんも5回目の日本であるが、今回はファンテイジア校長やガーランド理事長、ケリーさん達と香港で自閉症児教育への寄付金活動をされてからの来日。

なんでも、香港でステージ上で踊る野田学園長のそっくりさんを見られたそうで、通訳の大久保先生も「エッ？」と自分の耳を疑ってしまうスピーチであったため、「今なんておっしゃいましたか？」という一幕が…
世界に3人はいるという、そっくりさんですから、香港で野田学園長を見かけるのはまだ解るものの、「ステージ上で踊る」は理解しがたいところ。

この連合後援会だよりの読者の次なる香港目撃情報が待たれます。

「3匹のヘビ」と「やみネクタイ」

楽しい自己紹介のあと、高等専修学校、田中会長の音頭で乾杯、通訳の先生を交えながらの楽しい歓談が始まった。

田中会長、中学校の井上会長、小学校の高橋会長は今年のボストン発表会見学ツアーに参加を予定（むらさき会の内堀会長も）しており、今から社交英会話の練習である。

井上会長はその体格の良さと浅黒い肌ゆえか、ハワイ出身と間違えられ、一同大爆笑。

ひとしきり、会話を楽しんだ後、その井上会長がプレゼンターとなり、恒例のプレゼント交換が行なわれた。日本側からはお馴染みの干支の置物で、今年は巳年、繁栄の象徴でもある蛇の置物が贈られた。

ガーランド理事長、ファンテイジア校長とマレーさんの3人は巳年生まれの年男と言う事でもあり大変気に入ったご様子。

ボストン側からは、バレンタインデイ翌々日ということでチョコレート、ベルモント公立図書館のトートバッグ（まさにお土産の手本！）、極めつけはガーランド理事長の「やみ鍋」ならぬ、「やみネクタイ」のプレゼント。バッグの中に色々なネクタイを仕込み一人一人が手を突っ込んで1本ずつ引くという趣向。派手目のものを引かれた方は目を白黒させての大騒ぎ、会場を大いに盛り上げて、東ファミリーのホームパーティ（ファンテイジア校長の弁）が終わった。

翌日の発表会で、各園校の校長先生や会長さんが見慣れないネクタイをしていたのにお気づきになりましたか？

ボストン東ツアーリポート　～アメリカ障害児教育とボストン東スクールの意義～　TOKYO→BOSTON

小学校2年保護者　岡部　耕典

2000年10月23日から、10月30日まで、武蔵野東学園の初の試みとして治療クラスの家族を対象としたボストン東スクールへのツアーが行われました。参加させていただいた治療クラスの保護者のひとりとして、そこで感じたアメリカの障害児教育制度とそこでのボストン東スクールの担う大きな意義について、少しまとめてみたいと思います。

ボストン東スクールは、マサチューセッツ州（以下マ州）の一般法とその関連規則のもとに特殊教育機関としての認可をうけた私立学校（private school）です。障害児のみが在学する施設ですが、法的にはあくまで教育機関であり、福祉施設ではありません。現在のアメリカの障害児教育は、徹底した mainstreaming（メインストリーミング：混合教育）であり、公立学校で障害のある子供もない子供も共に学ぶことが本人の権利として保証されています。日本でいう養護学校のようなものは制度上も存在せず、日本に比べると、障害児が地域と障害がない人々の間であたりまえに暮らし、学ぶという権利の保証が、制度としても実態としても徹底されているのです。

実は、こういうアメリカの教育制度のなかでは、ボストン東スクールのように、同一敷地内に学校と寮が並存するような形式はその閉鎖性を理由に非常に認められにくくなってきているという。ボストン東スクールは、マ州教育省から、その実績をもって、特別に許可された存在なのです。では、なぜボストン東スクールが存在し、多くの在学生がいるのか？これには、アメリカにおける障害児の特殊教育を受ける権利保障の制度である IEP（Individualized Educational Program ：個別教育プログラム）が大きく関わっています。
IEP は、障害ある子供が、その障害の種類と程度に応じた必要な special education（特殊教育）を受ける権利を保証するものです。
本人のために親と役所の担当者と専門家が、IEP の具体的な目標を定めます。

その目標達成のための特殊教育は、一般の教師ではなく学位もった特殊教育の専門家が対応し、通常は、普通学級にいる障害児のもとに専門家が通うか、逆に特殊教育の教育施設に障害児が週に数回通うという形をとっています。このように障害児の権利は、「普通に生活できること」だけでなく、かつ「そのハンディに応じた特殊対応も受けられること」というところがアメリカの障害児教育の素晴らしいところです。ちなみに、このようなメインストリーミング（混合）と IEP（個別）をともに大事にする考え方を、一般的には、inclusion（インクルージョン）と呼ぶようになっています。

しかし、IEP の実行にあたり、身体障害の多くの場合とかとは違い、自閉症児、それも重度の子供達の場合は、問題行動への対処と生活訓練が大きな比重を占めており、なかなか普通学校での対応では、困難が伴う場合があります。また、環境的にも、多数の一般生徒の間にひとりぼっちであることが本人の安定と成長にとって必ずしも適切ではないタイプ、（もしくはそうした時期）の自閉児もいます。このような場合は、単純なメインストリーミングでは、IEP の環境としては不適切な場合と判断され、さらに親の強い希望があって初めてボストン東スクールへの入学が、IEP により指定されるわけです。

しかも、アメリカでは、障害のあるなしにかかわらず、教育費は無料ということが法律で定められています。従って、ボストン東スクールの在学生の入寮費を含めた年間約10万ドルという費用は、多くのアメリカ人の場合は政府が負担し、学校に支払われています。そのかわり、IEP がちゃんと実施されその成果があらわれているか、また障害児の人権が守られているか、地域との交流プログラム等が組まれ実施されているかといった事項について、アメリカ全土の ADA（障害をもつアメリカ人法）の実施監督をする官庁およびその監督下の州の官庁が、厳しい監督及び査察調査を行っています。ボストン東スクールの親たちは、自らが最も子供に適した教育環境を主体的に選択し、（多額の費用がかかるので、政府もそう簡単に認めてくれず、実際、教育訴訟を起こして、「入学の権利を勝ち取った」方もいるそうです。）しかも、その自らの選択と努力により多額の助成がおり、その結果としてボストン東スクールという自閉症専門の学校の経営が成立しているという強い誇りと自負があるのです。学校側もまた、親たちの強い期待と行政側の厳しいチェックに応えているという責任感と自信に満ちているように感じました。代々の親の会々長は理事として学校経営にも参画し、一方で休日には、ボランティアで学校の垣根を修理していたりする親を見かけるのがあたりまえというような、フレンドリーで風通しのよい環境も、そういうお互いの自覚と自信が生み出すもののようです。

今、日本の福祉や教育の世界も遅まきながら、障害をもった子供や家族の権利の擁護とサービスの選択の時代に入ろうとしています。武蔵野東学園の柱でもある混合教育も、次第に珍しいことではなくなってゆくのかもしれません。日本が、10年先を進むアメリカのような時代を迎えたとき、すなわち、全ての学校で「混合教育」が基本となったときには、自閉症児の特性とひとりひとりの個性に応じた個別教育体制の確立、そして、学校と親と行政の新たな関係の確立が必要となります。それに対する大きな先取りと大事なヒントが、今のボストン東スクールには凝縮しているように思います。

編集委員会（編集スタッフ）
□鈴木　陽子（高等専修学校）
□中川　恵　（高等専修学校）
□大久保早苗　（中学校）
□村田　昌子　（中学校）
□池山美奈子　（小学校）
□渡辺恵美子　（小学校）
□金　聖和　（幼稚園）
□山越恵美子　（幼稚園）
□吉野真由美　（中学校）
□石川　貴子　（幼稚園）
■編集長　太田　秀昭

ご意見、ご感想お待ちしております
（編集スタッフ募集の申し込み先）

発行：武蔵野東学園連合後援会だより編集委員会
〒180-0013 東京都武蔵野市西久保 3-25-3 東学園気付
Fax 0422-51-0267 / e-Mail ohta@cyborg.ne.jp